



珊瑚集

7

山元志津香

ピアノの塵

志津香さんは知的な人であると思う。  
この特徴は、西洋画家や彫刻家への  
関心に表れるし、言葉への好奇心に  
も表れている。 有馬朗人・序より

侘助の二花相聞に活けにけり

きさらぎの肌透きとほる象牙佛

カンナ剪るサロメが首を抱くやうに

燐寸の焰美しすぎる夜の霧

も  
し  
か  
し  
て  
み  
ん  
な  
淋  
し  
い  
ラ  
ム  
ネ  
振  
る

明  
日  
逢  
へ  
る  
麻  
布  
あ  
の  
字  
の  
あ  
た  
た  
か  
し

香水一滴けふ母でなし妻でなし

人間をやめる気はなし土用灸

かたくなに右むけ右の焼目刺

逃げ水や行きつく涯の親不知

デルボ一の娘の瞳で待ちぬ駅夜寒

ヴラマンクの架かる一室寒明けず

マ  
ネ  
の  
黒  
ユ  
ト  
リ  
ロ  
の  
白  
冬  
近  
し

春  
暖  
炉  
マ  
チ  
ス  
の  
赤  
き  
絵  
が  
眠  
し

夏館青いらんぷとルドンの絵

小気味よく鬼灯鳴らし姑なり

草相撲弟はバケツ叩く役

擦り切れしオールドジャズとクリスマス

ブランチは千疋屋とか春手套

蔦の芽のポストモダンへのぼりゆく

どうにでもしてと居直る虎魚の眼

太刀魚はかの知盛の落しもの

貴婦人はもう真つ平と雪女郎

デビューしたくない子子でありにけり

武満  
忌  
ピアノ  
ノ  
に  
東風  
の  
塵  
幽  
か

肉  
焼  
い  
て  
人  
日  
汚  
し  
み  
た  
り  
け  
り

寒の水ごくり胃の腑に水位かな

寒薔薇の咲けぬももいろ微熱あり

処女雪に顔埋めもしやデスマスク

雪合戦太郎花子の顔になる

友情は老いを知らざり桜鍋

海の詩聴かで海鼠となりにけり

無言劇をはる野面や犬ふぐり

佐保姫をおもへば太初の宙が見ゆ

白椿恋の呼び出しほどの紅

囀りのちゅう・はっぴいと始まる日

一身を熱くし  
雛の舟を押し

片足は石にふんばり  
雛流す

桃咲いて男やさしくなる漁村

曇天に金泥を刷くはなみもざ

春シヨール綺麗な嘘をなびかせて

仕残せしこと存分に花の天

悼横溝千代さん

橋おぼろ身丈のうしろすでに過去

濁世万年のぞき過ぎしと亀鳴けり

朝桜いま生きてゐる顔洗ふ

雉子鳴くや男化粧ふは神代より

咲き満つる花を煽りぬ象の耳

藤房の丈はありあり「はん」の舞

金ぶちの皿は立夏の乱反射

たそがれの白薔薇蒼しサテイー聴く

柿  
若  
葉  
樹  
液  
一  
滴  
も  
し  
や  
赤

白  
靴  
の  
爪  
先  
起  
点  
と  
す  
る  
未  
来



山元志津香 (やまもと・しづか) 本名 山本静子

昭和9年 岩手県盛岡市生まれ  
昭和55年 「青芝」八幡城太郎主宰に師事  
昭和60年 青芝賞 (師没後退会)  
昭和61年 「あした」宇咲冬男主宰に連句も師事  
あした新人賞・連句協会賞 (平成8年退会)  
平成9年 「八千草」俳句・連句誌を創刊主宰  
「天為」有馬朗人主宰に師事、同人  
平成11年 「天為100号記念コンクール」論文佳作賞  
平成14年 神奈川県現代俳句協会創立20周年記念  
「湾岸賞」2位 (佳作1位)  
2002連句文芸賞  
現在 俳人協会・現代俳句協会・国際俳句交流協会会員  
読売・日本テレビ文化センター新宿俳句講師ほか  
俳書『平成俳人大全集』『現代俳句精鋭選集』ほか



現住所 〒215-0006 神奈川県川崎市麻生区金程4-9-8  
TEL 044-955-9886 FAX 044-955-9882

珊瑚集 7

句集 ピアノの塵

発行 平成十六年一月五日

著者 山元志津香 ©S.Yamamoto

発行人 松尾正光

発行所 株式会社東京四季出版

〒160-0001 東京都新宿区片町一―一四〇二

電話 〇三(二三三五八)五八六〇

振替 〇〇一九〇―三―九三三三三

印刷 西武印刷株式会社

定価 二八〇〇円 (税込)

ISBN4―8129―0305―X

落丁・乱丁はお取替いたします